



令和8年
1月

学校だより
心ゆたかに かしくく たくましく
～ 自律・感謝～

さいたま市立大砂土東小学校
Tel 048(684)8003
令和8年1月7日発行

本当の「叱らない子育て・教育」

校長 石川 顕一



▲ 雪が残る中庭

新年明けましておめでとうございます。それぞれが健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本校では、学校の教育目標「心ゆたかに かしくく たくましく」を具現化するために、「自分で考え、自分で判断し、自分で決定して、自分から行動する子ども～自律～」 「互いの違いを認め、自分も含めた全ての人・もの・ことを大切にする子ども、感謝する子ども～感謝～」を育成しています。引き続き、

教職員、保護者や地域の皆様とタッグを組み、子ども一人ひとりの成長を大切にしていきたいと存じます。

先日、ある学校の教員からこんな話を聞きました。

飲食店でのこと。子どもが床に寝そべっています。そして、スマホを充電しながらゲームに夢中です。その教員は、子どもにやめるように促すと、母親が怒り出します。

「どうしてうちの子を注意するんですか。やりたいようにやらせて何か悪いですか。」

この教員は、「基本的生活習慣が身に付いていない子どもが増えたのではないか。日頃は、注意すると嫌な思いをするのでできるだけ言わないようにしている。この傾向は、学校でも家庭でも起きていると思う」と続けます。

これでは、子どもは誰にも注意を受けないまま育つことになります。

この傾向の背景の一つとして考えられるのが、「叱らない子育て・教育」の拡散です。叱らないとは、感情的になって怒鳴らないこと、冷静に言葉で諭すこと、子どもの気持ちに寄り添って問題点を自分で考えさせることです。しかし、「叱らない」の言葉の印象からか、何をしても注意をしない、否定しないと解釈されているようです。叱らない子育て・教育は、何をしても許すというわけではないはずです。

命の安全に関する危険な行為、他人を傷つける行為、著しく集団のルールを乱す行為などには、毅然とした態度で叱ることが必要です。その際には、①叱る理由を明確にし、②子どもの目を見ながら、③褒めることとセットにしながら、叱ることが重要です。

私たち教員も保護者の皆様も、子どもの健やかな成長を支えていくために、本当の「叱らない子育て・教育」をしてまいりましょう。